

平成 2 6 年度

公立大学法人北九州市立大学の業務の実績に関する評価調書

○全体評価調書

○分野別調書

記 入 要 領

北九州市地方独立行政法人評価委員会

平成 2 7 年 7 月

## 公立大学法人北九州市立大学の平成25年度に係る業務の実績に関する全体評価調書

### ③ 全体

#### 【全体評価】

○理事長・学長の強いリーダーシップのもと、平成25年度も計画の達成に向け、様々な取り組みにより大学運営の改善や効率化が実行されていることは高く評価できる。昨年の課題に対しても、長期的視点と、短期的視点の両方で迅速に対応されている。社会でニーズの高い「グローバル人材」の育成や、「地域活動」「環境活動」の教育や研究が成果を上げており、市立大学としての役割を果たす努力もなされている。

○教育分野では、文部科学省の補助事業である「グローバル人材育成推進事業」を中心に、その他にも多種多様な教育活動を実施し、成果を挙げつつ、ほぼ計画通りに進捗している。一方で、一般選抜入試の志願者が2年連続で減少していることが懸念材料である。18歳人口の減少など社会環境の変化を踏まえ、入試のあり方の検討を進めるとともに、入試広報戦略などにより大学の魅力をPRし、優秀な志願者・入学者が増えるように、より一層努力していただきたい。大学院教育については、定員の充足などの改善は見られる。しかしながら、基本的な方針と育成する人材像について卒業後の進路も含めて本質的な検討を行っていただきたい。

○研究分野に関しては、先進的な研究・開発や地域課題研究さらに付属研究機関による研究拠点の形成など、質的水準も高く、計画以上に進行していると評価できる。今後、さらに北九州市の新しい都市政策をリードする研究を進め、北九州市の発展に結びつけていくことを期待する。

○社会貢献分野では、「地域共生教育センター」、「まなびとESDステーション」等の諸活動、大学間連携共同教育推進事業などにより社会貢献も大いに進められている。

○管理運営分野についても、実態に応じた組織変更が行われ、計画が円滑に実行される体制となっている。また、外部研究資金については、目標を上回る額を獲得しているものの、減少傾向である。専門的な部署と職員の活用などを検討されたい。認知度向上プロジェクトについては、計画段階であり、今後その実行に期待したい。

#### ③【全体評価】 ■評価委員が記述(箇条書き)

- 分野別評価の結果や大学の実績を端的に示す指標等を参考にしながら、中期計画の進行状況全体について『評価委員会』による評価(特筆すべき点や遅れている点、その他の意見等を記述)

- ・ 事業の実施状況について(分野別・分野横断的な事項の実施状況等について)
- ・ 業務運営の改善・効率化等について
- ・ 財務状況について
- ・ 法人のマネジメントについて
- ・ 市民への説明責任と透明性の確保について
- ・ 地域貢献を目指した特色ある取り組み等について

<中期計画の4つの分野>  
 I 教育  
 II 研究  
 III 社会貢献  
 IV 管理運営等

③ 全体(2P)  
 ↑  
 ② 分野別

【分野別評価】

I 教育

5段階評価

A

○入試広報について計画に達していない項目もあるが、全体として学習支援、生活支援、就職支援等細部にわたり、計画通りの進行状況と考えられる。  
 ○北九州市立大学の特徴の一つである英語力の養成については、それを養う全般的な体制も強化され、また「グローバル人材育成推進事業」に基づく教育体制も整えられている。今後もその成果に期待したい。  
 ○環境人材の養成においても北九州市環境首都検定において団体として最優秀の成績をおさめている。地域創生学群についても就職率が良好で、地域貢献に役立っている。  
 ○一般選抜入試の志願者が減少傾向にあることは問題であり、特に理系学部の志願者を増加させるために入試広報戦略の中間評価後の施策を速やかに実行していただきたい。  
 ○大学院については、定員充足率などの改善など問題点への対策が徐々に進められているが、基本的な方針と育成する人材像について卒業後の進路も含めて本質的な見直しの検討を進める必要がある。

●大学の自己評価に対する検証結果や特記事項を踏まえ、下記指標に照らして5段階評価  
 S: 特筆すべき進行状況(特に認める場合)  
 A: 計画どおり(すべてIVまたはIII)  
 B: 概ね計画どおり(IVまたはIIIの割合が9割以上)  
 C: やや遅れている(IVまたはIIIの割合が9割未満)  
 D: 重大な改善事項がある(特に認める場合)

●項目別の評価を踏まえた『評価委員』による評価  
 (特筆すべき点や遅れている点について記述)

① 項目別  
 ↑  
 評価委員が記入

策定済(計画に掲載された内容)

大学による自己評価

中期計画	年度計画	進行状況	実施状況等	評価	評価が大学と異なる理由及び特筆すべき事項
1 学部・学群教育の充実に関する目標を達成するための措置					
2 ② 教育課程の改善、厳格な成績評価、単位認定 教育目的、学位授与方針の達成に向け、教育課程編成・実施方針を策定し、体系的・順次性を重視した教育課程の改善を行う。あわせてGPA*分布の学部学科間の共有化などによる成績評価・単位認定の適正化を行う。  * GPA制度…客観的な成績評価を行う方法として大学に導入されているもの。一般に授業科目ごとに5段階(本学の場合S、A、B、C、と不合格のD)で成績評価を行い、それぞれ4から0点のグレード・ポイントを付し、この単位当たりの平均値がGPAとなる。	2-1 ② 教育課程の改善、厳格な成績評価、単位認定 教育課程編成・実施方針に基づき、より体系的・順次性を重視した新しい教育課程を実施する。  2-2 ② 教育課程の改善、厳格な成績評価、単位認定 学部・学群の年次・学期単位のGPA分布を引き続き整理し、その状況を各学部等に報告し、教員間での共有を促進する。これを受け、各学部等では成績評価・単位認定について検証し、必要に応じて改善を行う。	III	○教育課程編成・実施方針に基づき、授業科目のナンバリングやカリキュラム・マップの導入など、より体系的・順次性を重視した新しい教育課程をスタートさせた。(対象:平成25年度以降入学生) また、1、2年次配当科目(平成25年度以降入学生対象科目)について、シラバスシステム上に授業で得られる「学位授与方針(DP)における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」と具体的な到達目標を掲載し、公開を行った。  ○平成24年度の成績評価分布及び学科・学年別のGPA分布を各局に配布し、各学部等において検証を行った。	III	年度計画を順調に実施していると思われる

■大学が記載済み

【年度計画の実施状況を自己評価(4段階評価)】

中期計画の項目ごとに、当該年度計画の実施状況等を下記指標に照らして大学が自己評価  
 <評価指標>  
 IV: 年度計画を上回って実施している  
 III: 年度計画を概ね順調に実施している  
 II: 年度計画を十分に実施できていない  
 I: 年度計画を実施していない

■大学が記入済み

【年度計画の実施状況等の自己評価(記述式)】

中期計画の項目ごとに、業務実績、当該年度計画の客観的な進行状況、その判断理由等を大学が記述。  
 (実績報告書と同内容)

●年度計画の進行状況等を踏まえ、中期計画の項目ごとに、下記指標に照らして4段階評価

<評価指標>

IV: 年度計画を上回って実施している  
 III: 年度計画を概ね順調に実施している  
 II: 年度計画を十分に実施できていない  
 I: 年度計画を実施していない

●大学の自己評価と評価委員の判断が異なる場合は、その理由を記述。

●判断が同じ場合でも、特筆すべき点や遅れている点があれば、その旨を記述。